

# 手賀沼が海だった頃

NO. 9

地域の歴史や自然を皆で語ろう

2004. 1. 22

## 手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報

### 松ヶ崎城址の保存・活用を

#### 手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会役員会

柏市松ヶ崎に残る中世の城跡「松ヶ崎城址」の保存・活用は、当会の大きなテーマの一つ。平成11年に歴史シンポジウム「手賀沼が海だった頃」を開催以來、いろいろな研究者、市民の方々に教わり、関わってもらいながら同城址について考えてきました。

柏市は東葛地域の中でも、急な開発で史跡や緑が多く失われてきた地域。同城址は2万平方メートルに満たない面積ですが、城跡(戦国時代)だけでなく、堅穴住居址(縄文時代)、古墳(古墳時代)、不動尊跡(江戸・明治)が残り、重層的な歴史を包含しています。同時に、大堀川沿いのグリーンベルトの一部で、豊かな緑にも覆われています。

文化財保護委員会議で「現状保存が望ましい」との結論

一昨年と昨年の秋、柏市教育委員会へで城址の確

認調査を2回行いました。それらの結果を受け、文化財各分野の専門家で構成される「文化財保護委員会議」で11月、松ヶ崎城址の保存について話し合われました。結論は「現状のまま保存が望ましい」。今後この意見を踏まえ、市役所本庁が方針を決めるこのことです。

**署名活動、賛同くださる方は、ご協力をお願いします**

当会では、県内の歴史研究の2団体、県内外の歴史研究者20名に賛同いただき、一昨年5月「松ヶ崎城址の保存要請書」を本多晃柏市長へ提出しました。また同年11月から街頭で、一般の方々への署名活動も行ってきました。

松ヶ崎城址の保存とより良い活用を求めて、当会では署名活動を続け、再度柏市長に提出します。賛同くださる方は、ご協力をお願いします。(問い合わせは4面事務局まで)

### 「松ヶ崎城址」のビデオ完成 会ホームページ立ち上げ

<http://www.matsugasakijo.org/>

「松ヶ崎城址のビデオ制作」(会ホームページの立ち上げ)の2事業に対して今年度、エルコーPNPO助成基金23万円の支援を受けることができ、昨秋完成しました。

**ビデオ「柏の歴史遺産ー松ヶ崎城址」80本を1200円(税込)で販売中**

昨年4月、会メンバーリストでコンセプトを話し合うことからスタート。ビデオ制作は会でも初めてのことでしたが、柏市内でテレビ番組製作会社を設立した元NHKワシントン支局カメラマン・岡村幸治さんという強い助っ人が現れました。

した。

構成案・シナリオの作成、映像材料の手配、撮影、編集ー完成まで多くの方のご協力がありました。撮影をかねた見学会に急遽集まってくださった方々、資料を提供してくださった柏市教育委員会・千葉県史料研究財団、ダビングを市価の半額に交渉してくださった方。完成した作品は25分で、タイトルは「柏の歴史遺産ー松ヶ崎城址」。内容は「松ヶ崎不動尊の絵馬」「常総に広がっていた内海・香取の海」「松ヶ崎城の構成」「松ヶ崎城はどのような城だったか」で、監修・解説は鈴木英夫当会顧問。ビデオは次の4書店で販売中ですので、ぜひ、ご購入ください。

- ▽柏駅東口浅野書店▽柏市松葉町ブックス青い鳥
- ▽柏市北柏駅前 文教堂
- ▽我孫子市平賀書店

\*遠方の方は郵送いたします。4面下欄の浦久までご連絡ください。

**柏市立小中高へビデオ50本を寄贈**

地域の歴史を子どもたちにと11月28日、川上利男会長、青山和平副会長と会報

ビデオカバーも手作り



担当・浦久で、本多晃柏市長、矢上直教育長に面談。市立小中高へ50本を寄贈しました。「地域の歴史、また非常に保存状態の良い松ヶ崎城のことを、子どもたちに伝えてほしい」という会の要望を伝えると、「総合学習など、地域の歴史教育に役立てたい」と本多市長。文化財の写真保管についても話し合いました。

**ホームページの基本部分を立ち上げ(詳細は3面)**

会のホームページの基本部分も完成しました。イベント予定も随時掲載されますのでご利用を。皆様の寄稿・投稿もお待ちしております。

# 歴史講演会 「野馬土手は泣いている」



江戸時代、流山・柏から千葉市にまたがる地域に、設けられた幕府直轄の放牧場「小金牧」。その牧に築かれていた野馬土手を調査し、本に著した青木更吉さんが9月28日、スタジオWUUで講演した。YUUの会主催、当会は共催で、参加者は95人。

写真家・大北寛さんの協力もあり、当日は70コマの写真・絵馬・地図をプロジェクターで写しながら話が展開。「野馬土手とはどのようなものか」が、分かりやすく説明された。

からなる。また、野田の庄内牧は、享保改革時、新田開発により廃止。

【南柏の野馬土手】非常に保存状態がよく、「小金牧に残る野馬土手ベスト10」の2番目に青木さんがあげている土手。場所により土手は1重〜4重まであるが、ここは大土手・堀・小土手の二重土手。堀を掘ることで、障害物としての土手の高さが増すと同時に、土手を築くための土を得られる。

【柏新木戸】（南柏）新木戸の位置ははつきりと分かっていなかったが、野馬土手の曲がり具合から、バス亭「新木戸」より南へ下った場所と確認できる。小金原勝景絵図には、この新木戸付近と思われる絵がある。木戸番

小屋の軒下には「わらじ」が下がり、縁台で旅人が休むなど、当時の情景がよくわかる。

【野馬捕（のまどり）】野馬を捕らえる行事が野馬捕り。牧士や勢子が捕込へと馬を追込み、「綱かけ」「とつたり」の2役が馬に綱をかけ、前脚を抱え込んで捕らえた。「福唱寺の野馬捕り絵馬」には、行事の様子が活写されている。屋台や露店が出て、土手の上では人々が籠を敷いて見物する、祭りのような賑わいだった。

その他、土手の種類、馬の水呑み場、野馬土手の現在など、多方面から説明。常磐新線敷設などで急速に野馬土手が破壊されている現状だが、「野馬土手のことをぜひ知ってほしい。野馬土手が史跡として保存されることを願っている」と青木さん。牧に関する著書は、「小金牧 野馬土手は泣いている」「佐倉牧 続野馬土手は泣いている」「小金牧を歩く」（いずれも崙書房 10417 15810035）

## 地元松葉町で城址見学会&講演 鈴木英夫さん（会顧問）の講師で

会員 小池芳規

ハイキングで  
子供たちと

4月19日

例年4月に行われている「松葉地区青少年健全育成推進協議会」略称「松葉地区青少年協」の今年のハイキングのテーマは「松ヶ崎城址と大堀川を歩こう」というものでした。松葉二小を9時半に出発した、約100名の子どもたち（含む少しの大人）は少年野球チーム松葉ニューセラミックスの上級生を先頭に松ヶ崎城を目指しました。しかも、上級生たちはゴミ拾いをしながらの早足でした。

松ヶ崎城では鈴木英夫先生が待ち構え、子どもたちを2班に分け大忙しで解説しました。先生によると子どもはもちろん同行の父母も興味津々であったとのこと。生き

員が一堂に会する年一度の会ですが、「考える会」の川上会長・小池幹事も青少協の一員であり、なんと青少協の会長の芝原さん（柏市全体の青少年協の会長も兼務）も「考える会」の会員です。

例年、興味ある講演者を招き、1時間程ためになるお話をしていたが、今回は鈴木英夫先生が登場、「松ヶ崎と周辺地域の歩み」という演題で、今までの松ヶ崎城に関する研究の集大成を講演されました。発掘調査時のパネルも展示し絵馬についても解説されました。「歴史不毛」の土地である柏地域の、特に従来ほとんど語られることのない北柏地域における松ヶ崎城の発表は非常に画期的であり、身近な、しかも現在残されている歴史環境に対する興味はどんどん深まっています。

前述の「松葉地区青少年協」の「総会」に替わる「定期委員会」は毎年5月に開かれます。松葉地区内の学校長・PTA・町会 大好評のうちに迎えられ、談員・民生委員・児童委員で

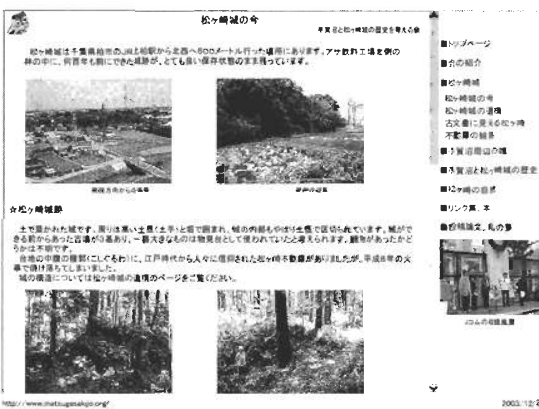
# ホームページ基本部分が完成

## 多くの方の投稿・寄稿をお待ちします!

URLは1面。現在できあがっているのは①トップページ②会の紹介③松ヶ崎城の構成④手賀沼と松ヶ崎城の歴史⑤リンク集・本などだ。

「担当者聞く」  
2つの要素が調和したホームページに  
会員 渡辺成子さん

「松ヶ崎城の歴史や活動など、多くのことが取り込まれたホームページ」



当会のホームページ

になりました

「私は約1年前に入会しました。入ってみて講演会や見学会が活発に行われていること、充実した会報が継続して発行されていることに感銘を受けました。この活動の全容を最大限盛り込んで、会員以外の方にも知ってもらいたい、というのが一番の力点でした」

「準備中のページもありますが、今後の方向は。『作成したページは、会員の意見を聞いたり、試作をして作ったベース部分。『地域史研究』という学術的な内容』と『多くの方々に見ってもらえる内容』。この両要素を調和させたいと考えました。不慣れなところもあつてうまく調和できたか、自分では判断できませんが、この2点

は今後も柱にしていきたいと思っています」

「多くの方に見ていただきたいです」

「年齢や障害の有無にかかわらず、読みやすく分かりやすくできればと思います。小さなサイズのフォントは、なるべく使用しないように、また、視覚障害の方が使用される音声読み上げソフトの機能を考え、メニューは右に、内容は左にしました。実際に利用してもらってからの調整は今後の課題なのですが、小学校高学年以上の子供たちにもぜひ見てもらいたいですね」

「投稿ページもあります。『はい。地域史に関わる論の寄稿・投稿などがあれば、中身が濃いものになります。同時に松ヶ崎周辺、柏市、手賀沼などの日常的な出来事や写真なども掲載できれば。大堀川の鳥や、季節の風景、植物などあつたら楽しいのではないでしょう」

「制作の中心になったのは彫刻家・中津川督章さん。最初は模型造りに詳しい小林正孝さんのアドバイスで、5人が基礎部分にとりかかった。ストレッチボード10数枚に測量図を張りつけ、等高線に沿ってカッターで切っていく。結果、等高線と同じ数だけできたパーツを、今度は下から順番に積み上げていった。どのような素材を使うかの試行錯誤があつたが、作業2日目の終わりには、台地や城の骨格が姿を表わした。『小学生の頃、同じような方法で模型を作ったことを思い出しました。1枚の測量図が立体になり城跡模型になっていく。その過程は、ちよつとワクワクするような気持ちでした』と新名克子さん。次は基礎部分を紙粘土で覆ってならし、樹脂、ラッカー、つや消しのニスを重ねて塗った。この作業は土日を利用して中津川さんが担当。約1ヵ月をかけた。『基礎部分だけでは、小さなデッパリやヘコミが分からない。紙粘土で覆っていると、『もとは土塁や堀があつた場所ではないか』とも思える、微妙な地形が感じられました。現地へ行つても、大きすぎて分かんかったことが、模型にすると見えてくるよう、私にとつても楽しい作業でした』と中津川さん。

# 松ヶ崎城の模型も完成

当会では柏市教育委員会から、松ヶ崎城址の測量図を借り受け、模型を製作。ホームページ、ビデオなどで紹介する。

製作の中心になったのは彫刻家・中津川督章さん。最初は模型造りに詳しい小林正孝さんのアドバイスで、5人が基礎部分にとりかかった。ストレッチボード10数枚に測量図を張りつけ、等高線に沿ってカッターで切っていく。結果、等高線と同じ数だけできたパーツを、今度は下から順番に積み上げていった。どのような素材を使うかの試行錯誤があつたが、作業2日目の終わりには、台地や城の骨格が姿を表わした。『小学生の頃、同じような方法で模型を作ったことを思い出しました。1枚の測量図が立体になり城跡模型になっていく。その過程は、ちよつとワクワクするよう

クするような気持ちでした』と新名克子さん。

次は基礎部分を紙粘土で覆ってならし、樹脂、ラッカー、つや消しのニスを重ねて塗った。この作業は土日を利用して中津川さんが担当。約1ヵ月をかけた。『基礎部分だけでは、小さなデッパリやヘコミが分からない。紙粘土で覆っていると、『もとは土塁や堀があつた場所ではないか』とも思える、微妙な地形が感じられました。現地へ行つても、大きすぎて分かんかったことが、模型にすると見えてくるよう、私にとつても楽しい作業でした』と中津川さん。

# 活動

## 記録

2003年 6月～12月

講演会「野馬土手は泣いている」 4面に掲載

ビデオ「柏の歴史遺産―松ヶ崎城址」制作 4、10月/ホームページ制作 7月、11月

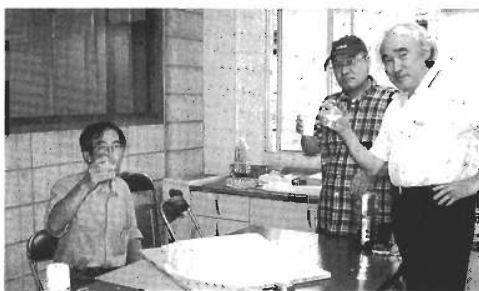
手賀沼ジャズフェスティバル・フリーマーケットに出店 8月24日

猛暑となった当日、水分を大量補給しながら、寄付された品物を販売。純利益1万8045円。(柏ふるさと公園)

「古代東海道を検証する」 11月16日

9月開催予定だったが台風で延期。詳細は次号。Jコム番組に出演 11月29日

「ムム! TOGETHER」で当会が紹介された。出演は川上利男さん、竹島いわおさん、松平信子さんの3人。当会の活動映像、柏周辺の歴史に関するクイズなどで構成された15分番組。放映は12月16日、31日(そごう柏本館1階ミレニアムコート)



基礎部分ができてカンバイ

# 沼南町（大井・箕輪）の

## 遺跡のオーク

2月22日（日）

遺跡が数多く残っている沼南町。今回は会員・中津川督章さんの案内で、会員対象の遺跡巡りを企画。古墳や城跡は草が枯れる冬場が見頃なので、身ごしらえ、足ごしらえをしつかりして一緒に歩きましょう。

・車の前五輪塔と阿弥陀様板碑

大井には、この地域ではかなり目立つ、中世の大きな石造物が2点存在し

ています。利根川流域は石の産出しない地域。この財力は何だったのか。

・大井船戸貝塚

縄文時代後期の貝塚で大半はヤマトシジミ。

古墳時代後期、古墳造りが大流行したが、その様子の分かる古墳群は東葛地域ではほとんど残っていない。この古墳群はもつとも密集している中心部あたりが残っている。約

掘に自殺者の、なんと多いことか。

犬や猫は腹痛の時、どの草を食べばいいのかを知っている。人も昔は、そのことが解っていた。しかし言葉を獲得した時に、そのことを忘れた。けれど、錆びたアンテナを磨けば、直感というその感覚は戻ってくる。

左脳は、スピード、競争、論理思考を司り、右

20基あり、貴重な景観が見られる。

・箕輪城址

戦国時代末期の城。病院建設以前は、4つの曲輪が残っていた。現在は半分ほどになったが、中世城郭の構造を知る、教科書のような城だといわれている。詳細は以下。▽2月22日（日）▽集合 沼南町役場裏の保健センター駐車場、午前9時30分▽交通アクセス 柏駅東口発、阪東バス「大津ヶ丘2丁目」下車（所要時間、柏駅から約20分）▽弁当・飲み物は各自持参。昼食は野外の予定▽参加費1000円（資料代込）、

脳は、感情、直感的感覚などを司る。

科学文明から愛と自然の文明へ人類は方向転換を迫られている。乗り遅れれば、大洪水の再来を招き、人類滅亡へと進んでいくだろう。

人類の心の病を治し、滅亡を救うものは右脳を発達させる教育である。今ようやくその入り口にたどり着いた。

会員外は500円▽約7キロの道のり。終了は午後3時の予定▽雨天・積雪は中止▽予約不要▽問い合わせ04-7191-1693 中津川さん

「下総・奥州 相馬一族」

七宮洋三 著

中世から明治維新まで、奥州海道3郡の領主として動乱の時代を生き抜いた大名・相馬氏。相馬御厨（そうまみくりや）を相続したことから生まれ、奥州へ移住した一族だが、増尾など柏市域との関係

も深い。その相馬氏一族について岩手日報東京支社編集部長、富士大学名誉教授の著者が、「一族の命運と、奇跡的な一族の生命力のナゾを追ってみよう」と書き下ろした。

内容は平将門のこと、下総国から奥州へ移住した経緯、南北朝下での戦い、伊達一族との攻防など、平安時代から1590年小田原落城までが記されている。▽287ページ▽2800円＋税▽新人物往来社▽TEL 03-3292-3931

「入会の案内」

当会は、地域の歴史や自然を楽しもうと活

動している、市民有志の会。年会費は2000円で、申し込みは事務局まで。「お名前、郵便番号、住所、電話、ファックス、メールアドレス（メーリングリスト参加希望の方のみ）」をハガキ・ファックス・お電話のいずれかでお知らせ下さい。

▽事務局 北絃子 〒277-0835

柏市松ヶ崎415-5、1-206 TEL・ファックス 04-7131-8879

▽会報編集・作成 浦久淳子 TEL・ファックス 04-7155-2351

### コラム 時・風・人

(1)

青山和平

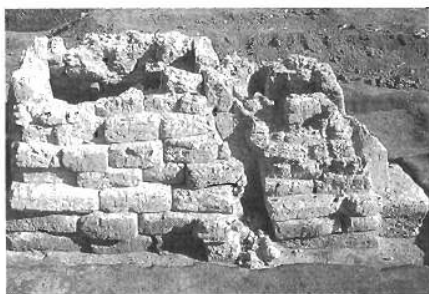
人類は、ここ1万年の間、左脳を発達させ過ぎ

たために、未来を喪失している。それは、生きる意味の喪失である。その証

争、論理思考を司り、右

### 「地域史を話す会（仮称）」 (1回目) を開催

「近辺の歴史について話す場があれば楽しいのに」という会員の一言から、立ち上げることが決まり、2月8日に1回目を開催。「歴史の好きな人が集まって話す」ことが唯一決まっているが、何でもありの緩やかな場にてできれば。とりあえず、話す材料として宝永元年の「手賀沼岸村々図」（沼南町役場所蔵）の写真、この地域の古墳の石室の写真などを役員で持参。どなたでも参加OKなので、お気軽にどうぞ。▽2月8日（日）午後1時～▽柏駅前通り商店街会議室（イトーヨーカドーのある通り、レストラン伍平の3階）、旧水戸街道信号の近く。▽問い合わせ 04-7164-7161 小柳さん



硬い土を切り出し組み立てられた、古墳の石室